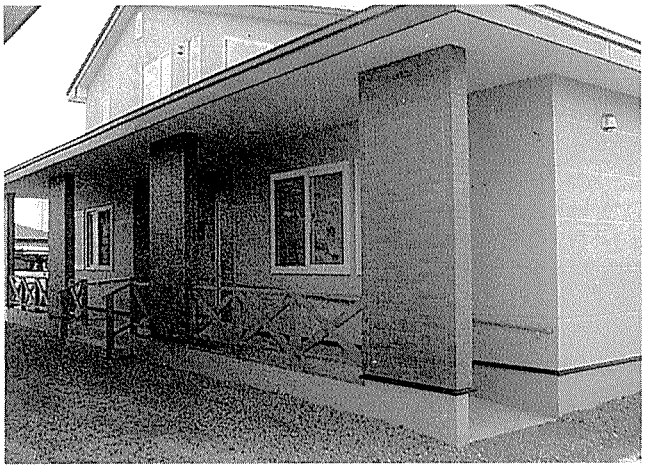
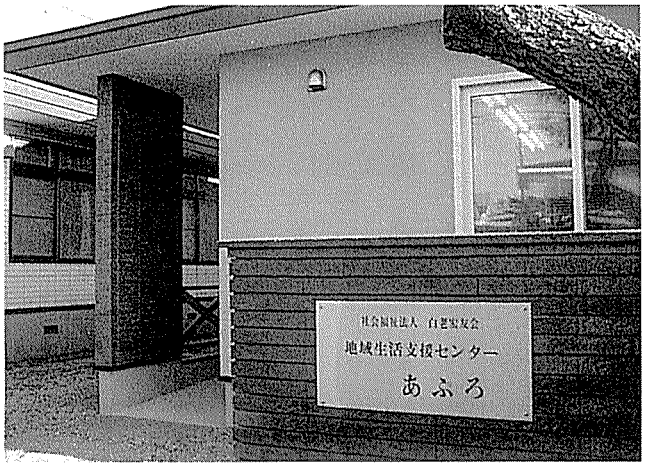
ＨＳＫ はぁもにぃ

はぁもにぃ 第20号
・昭和48年1月13日　第3種郵便物認可
・ＨＳＫ通巻　429号
・発　行　2007年12月10日
・発行人　北海道身体障害者団体定期刊行物協会（ＨＳＫ）
細川　久美子
〒063 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
・定価　110円
・編集　はぁもにぃ編集委員会
(0144)87－3800

地域生活支援センターあぷろ落成式





「希望するすべての障がい者が地域で暮らせる社会の実現」を目指して―北海道障がい福祉計画（平成19年3月）―は、それらの実現に向け、障がいのある人を主役とした支援体制や仕組みづくりを進めていく内容でつくられています。

当法人白老宏友会は、地域で支えるシステムを明確にし、その重要な拠点としての役割を実現する「地域生活支援センターあぷろ」の整備に力を注ぎ、今般その新築、移転に伴い、落成式を執行いたしました。多くの関係者の皆さまに感謝申し上げます。

地域生活者を支える中で実感する厳しい内容の障がい者自立支援法について先の全国フォーラムの中でも、障がい者の自立・地域生活に向けた制度確立、支給決定の見直しなど8項目のアピール文が実行委員会により採択されましたが、果たして応益負担は廃止されるのか見直しなのか。

「あぷろ」の由来であります「アマチュアの心とプロの意識」で、利用者・地域への様々な「アプローチ」を心掛け、今後更に充実した地域生活の支援を行ってまいります。

地域生活支援の拠点〝あぷろ〟

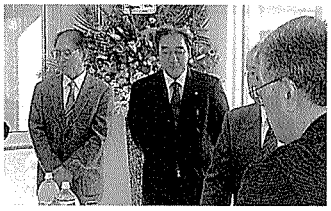
平成18年4月に施行された障がい者自立支援法において、その10月に経過措置なく実施に至った居宅支援の中で、それまで8ヶ所32名のグループホーム支援を行っていた型から10ヶ所35名の共同生活住居に暮らす利用者の支援の為に「地域生活支援センターあぷろ」はケアホーム(CH)・グループホーム(GH)一体型として認可を受けました。

平成19年4月に3名の利用者と1件を加え、現在11ヶ所38名の定員でCH・GH一体型〝あぷろ〟の運営を行っています。

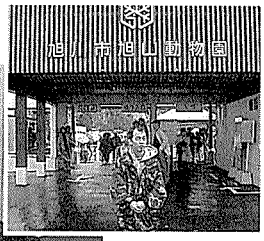
新地域生活支援センターあぷろ

各共同生活住居には世話人を配置しており、食事の提供を中心に日々の利用者の生活を支えています。〝あぷろ〟の支援内容は、日常生活支援としての巡回、相談業務、預り金の管理、支援、通院支援等健康管理、余暇活動への支援など行っています。また一般就労、福祉的就労についても支援しています。

昨年度6名の方が、延べ回数18回、延べ日数79日のレスパイトケアーの利用があり、現在のCH・GHで対応してきました。この経過は今後の地域生活支援のニーズを物語っているものであり、新あぷろの建設の必然性を垣間見ることができます。



あぷろ落成式より



地域生活者自治会青葉会行事より

平成19年11月6日、白老愛泉園(入所更生40名、通所部7名)、ポプリ(通所授産40名)、ななかまど(通所授産分場19名)を運営している当社会福祉法人白老宏友会は、白老町内にある11ヶ所の共同生活住居(38名)と地域支援の充実の為に〝地域生活支援センターあぷろ〟を新築移転し、落成式を執り行いました。同時に短期入所事業(ショートステイ)の申請を行っています。一階にスタッフルーム、食堂、ショートステイの為の洋室、二階には洋室2部屋とカウンセリングルーム等を設置しています。

障がいをもった方々が地域の中で生き生きと暮らせる街づくりの一つとして、あぷろは重要な役割を担っています。

茂木センター長経過報告

小田井理事長挨拶

23年度までに旧体系の施設入所等支援が新体系への移行へ本格化していきます。障がい程度区分の状況によっては、現在の施設利用者の地域生活への移行が予測され、その体制整備が求められてきます。支援センターの機能と役割りが期待されるところです。

飴谷町長祝辞

野口町内会長祝辞

今野社協会長祝杯

『私たちは、平成2年に第1号のグループホーム「東町ハウス」から生活を始めて17年がたちます。その間地域の皆様にお世話になりながら、各ホームで生活をし、福祉的就労先、一般就労先で頑張ってきました。この度、地域の拠点として新築移転しました「あぷろ」によって、私たちの将来がより充実・発展したものになるよう、これからも頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。』

―地域生活者自治会〝青葉会〟笠谷会長によるお礼の言葉より―

きょうされん北海道2007函館大会『ハートフルスピーチ』北海道ブロック選考会出場

平成19年9月8～9日、函館で開催された大会に、ポプリを代表して3名の利用者（尾関良美さん・鈴木寿美代さん・谷文江さん）が参加しました。

全道大会では、きょうされん結成30周年記念全国大会で企画されている、「ハートフルスピーチ～想いのままに伝えたい」の北海道ブロック選考会も行われました。今回のブロック選考会は、応募者21名の中から第一次選考で選出された鈴木寿美代さんを含む7名の方が意見発表しました。

残念ながら鈴木さんは道代表には選ばれませんでしたが、シンポジウムへの参加や、他施設の方との交流を通して、色々なことを感じることのできた研修だったのではないかと思いました。

「私」

鈴木　寿美代

私の夢は、おいしい焼きたてのパンを、たくさんの人に喜んでもらうことのできるパン屋さんになることです。町のおいしいパン屋さんとして、たくさんの人に愛される自分の店をいつか持ちたいと思います。

私の職場は、白老にある「ななかまど」という施設のパン屋さんです。私の行っているおもな仕事は、生地を丸めたり、分割をしたり、袋詰めを行っています。また、私は主担当としてパンにはさむ具材である、メンチカツやロースカツを作る仕事をしています。ロースカツは、豚肉を包丁でたたいて塩こしょうで味をつけて、粉・卵・パン粉の順に衣をつけていきます。また、メンチカツは、キャベツと玉ねぎをみじん切りにして炒め、冷めたら調味料などを加えて、混ぜて丸めてから衣をつけます。そのため、毎日いそがしいです。でも、この「ななかまど」で働けて本当に良かったです。なぜなら、職員が時には優しく、時にはきびしくしかってくれたり、いろんなことをしてくれるからです。だから私は尊敬しているし、たよれる人だと思います。自分も頑張ろうという気持ちにしてくれます。だから、私は職員に感謝しています。そんな中での私の今一番のなやみは仕事場でのトラブルです。仕事場のトラブルをなくすためには、言葉のかけ合いと、話し方に気をつけることだと思います。自分でも、これからはトラブルをおこさないよう何事もめげずに頑張って前向きになろうと思います。

また、私は家族のことが大好きです。たまにくだらないことでよくけんかをしたり、おこられることもあります。けれど、家で母と一緒においしい料理を作ることが好きです。母の手料理で一番おいしいのは、揚げ物とシチューです。だから、私も母のようになりたいと思います。父とは、よくけんかをするけど、私が出かける時には、「気をつけて行きなさい。暗くなる前に帰ってくるんだよ。」とやさしく言ってくれます。私にとって家族とはかけがえのない大切な宝物です。両親には、「今まで育ててくれてありがとう。これからもよろしくお願いします。」と感謝の気持ちを伝えたいです。

また、今一番頑張っていることは、漢字検定の資格をとることです。今、7級を持っていて、今度は5級の資格がとれるよう頑張っています。これからは、いろんな事にチャレンジしてみたいです。何事もチャレンジあるのみです。

10月に入っても気温が高く愛泉園まつりの準備も汗をかきながら利用者・職員共に頑張って行いました。

当日もすばらしい秋晴れ！の下、愛泉園まつりではすっかりお馴染みになった？愛泉園利用者による手話、今年はみんなが知っている国民的アニメ「サザエさん」と「世界に一つだけの花」を行いました。そして新しいパフォーマンスにも挑戦！と、「ゲゲゲの鬼太郎」のキャラクターに扮装し歌って踊りました。練習は日々大変でしたが、当日の利用者の楽しそうな表情や堂々とした姿、お客さんの歓声や拍手を聞いて利用者、職員共に充実感で一杯になった事が思い出されます。

今年もステージ上でのアトラクション・フリーマーケット・各福祉団体の作品販売と大変好評でした。毎年数多くのボランティアの皆様のおかげで成り立っているこのお祭、協力していただいたボランティアの皆様には本当に感謝しております。

来年はお祭り20回目という節目の年になりますので、更なるパワーアップに期待していてください。

第19回白老愛泉園まつり　テーマ：かがやこう！2007

第7回北海道知的障がい者芸術祭　みんなあ～と2007奨励賞受賞!!

9月29日に行われた「みんなあ～と2007」へ愛泉園の利用者8名、その名も『手話ッチ』がパフォーマンスと手話を披露すべく、札幌へ向かいました。

全道各地から、この日のために練習されてきた方やイベントに引っ張りだこのグループなども含めた17組でステージ部門が発表されました。皆さんお互いの感性を存分に見せ合い、さらにまた刺激を受けて今後の励みになったのではないでしょうか。

『手話ッチ』は見事第四位にあたる『奨励賞』獲得。何より参加した利用者たちの達成感を感じている表情に大満足でした。

芸術祭が終わり数日後には「愛泉園まつり」、勢いそのままに『手話ッチ』は大活躍。お祭りに集まった観客の皆さんはもちろん、自分たちも楽しむことができたようです。

ここ数年、よさこいで参加してきましたが、今回初めて手話を発表したことで、「まだまだ自分たちはやれる・やってみる」という気持ちになってくれたのではないかと、また新たな試みを思案しながら思いをはせる職員一同です。